



## 「苦しみの向こうにある希望」

～痛みと苦しみの中におられる主～

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわなないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」ヘブル12章2節

アメリカの次期大統領が決定しました。全世界で「トランプショック」と言われるほどの出来事が起こりました。クリントン氏が優勢とは言われていましたが、接戦になるかもしれないとも言われていましたから、このシナリオも予想できたはずであったのに、どうしてここまで世界は動揺したのだろうかと人々のあまりの反応に不思議すら覚えました。

政治家としては全くの素人、国の要職に就いたこともない。大金持ちではありますが、ある意味、アメリカ国民の代表のような人物なのかもしれません。彼の言葉はアメリカ人の半数以上の声を代弁しています。しかし、アメリカ国民の半数はその彼の言葉に大いに違和感をおぼえているという事実がアメリカ社会が分断された状態となっていることを明確にした選挙となりました。

先週の木曜日「ワトト・チルドレンズ・クワイア」のコンサートを観ました。会場は満場のお客さんでした。出演者は子供たちでしたが、その訴えるものは大きなものでした。ウガンダの状況は現在のアフリカを代表していました。約20年前からの働きですが、特に貧しさやエイズなどの伝染病、そして、内戦など、多くの要因で幼くして捨てられる子供たち。国の平均年齢は15歳。子供が子供を育てるという環境。そんな中でワトト村に引き取ってもらえた子供たちは幸いです、無残に捨てられ死んで行く子供たちの方が圧倒的です。

しかし、ステージの上での子供たちの笑顔、そして神への感謝と賛美の歌は純粹であり、まっすぐなものでした。どうして、そんな苦しい状況の国の中であんなに輝いて笑顔でいられるのか？様々なことを考えさせられました。

「私は捨てられた状況から救い出され、今はワトト村で幸せです！」と輝いて感謝をささげる子供たち。しかし、そんな子供たちの陰で多くの命が失われています。しかしそれでも神様は生きている、それでも主はすばらしい！と賛美していました。彼らの希望は、この世のものではなく、永遠の希望です。主は苦しみから救ってくださるお方ですし、病をいやすお方です。しかし、その苦しみと問題と病の中にある状態の真ん中にも主は力強くおられて、共に苦しんでおられます。それが本当の救いなのかもしれない。彼らはその苦しみの中を通過したからこそ、本当の意味で、主の救いと、憐れみを知ることができたのでしょう。

分断された世界をひとつにするためにキリストは死なれました。その永遠の救いは私たちの人類すべてのものです。キリストの愛と赦しがすべての人々に流れていくようにと祈ります。